

経口抗がん剤における双方向トレーシングレポートを用いた薬薬連携の有用性に関する研究

1. 研究の対象

平成26年3月～平成29年2月に新たに当院でティーエスワン又はエスワンタイホウもしくはゼロダの処方を受けられた方。

2. 研究目的・方法

平成26年3月から新たにティーエスワン又はエスワンタイホウ（以下、S-1）もしくはゼロダを処方された患者を対象に、薬薬情報共有レポート（以下、レポート）により情報の共有を行ってきました。今回、外来で28日以上服用および術前術後補助化学療法以外の患者様を対象にレポートの有無による無増悪生存期間を比較することで、レポートの有用性を明らかにすることを目的としています。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

患者基本情報：（カルテ番号，年齢，性別），癌腫，レジメン名，S-1 およびゼロダの服用開始および服用終了日，レポートの有無，服用終了の理由（病勢悪化による中止，治療変更，副作用による治療変更，死亡，追跡不能など），無増悪生存期間，服用理由（術前化学療法，術後補助化学療法等）

4. 外部への試料・情報の提供

共同研究機関へのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、当センターの研究責任者が保管・管理します。

5. 研究組織

京都薬科大学	臨床薬学教育センター	講師	中村 暢彦
京都薬科大学	臨床薬学教育センター	教授	矢野 義孝
京都薬科大学	臨床薬学教育センター	教授	楠本 正明

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

京都中部総合医療センター 薬剤部

研究責任者：京都中部総合医療センター 長谷川 晃司

研究代表者：京都中部総合医療センター 長谷川 晃司

-----以上